

はじめに

和歌山県環境衛生研究センターは、本県の環境及び保健行政を科学的・技術的に支える中核試験研究機関として、試験・検査、調査研究業務や技術指導・研修及び情報の収集・解析・発信を行うほか、危機事象発生の際には迅速に対応できるよう日々業務を行っています。

世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が依然として収束の気配を見せず、第8波の感染が拡大している中、当センターでは、関係機関の協力のもと体制維持を図りながら迅速・正確な検査を実施し、感染状況の把握や拡大防止、社会経済活動への影響の低減に尽力しています。

この他、衛生研究部では食中毒や感染症の原因である病原微生物の検査、食品中の残留農薬や添加物等の検査及び調査研究に、環境研究部では工場・事業場排水や公共用水域の水質調査、大気・放射能等の測定や災害発生時を想定した環境汚染物質の迅速モニタリング手法の開発等の調査研究に取り組み、その成果を地域の保健衛生及び環境保全対策に反映しています。

さて、当センターは築後約50年が経過し、老朽化に加え、感染症対策などの機能強化を図る必要が生じてきており、令和7年4月の供用開始に向けた再整備を進めているところです。今後も、施設・設備面での機能強化と併せて、人材育成・組織強化を図り、県民が健康で安心して暮らせる快適な生活環境の実現のため、より一層研鑽に励み、技術の向上に努めてまいります。

ここに、令和3年度の業務・業績を取りまとめましたので、関係者の皆様に御高覧いただき、御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 4年12月

和歌山県環境衛生研究センター
所長 村上 毅